

平成 20 年度事務事業の評価（個人票）

提出議員名 溝 部 幸 基

No.	事務事業名	評 価			評 価 の コ メ ン ト
		質的	量的	現状と今後の方向性	
1	福島健康横綱応援プロジェクト事業	4	4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別受診の実施等で受診率は、目標をクリアしているが、目標値が低い設定となっているのではないか。（受診者の固定化、就業者の受診状況等についての分析はどうか。） ・早期発見、早期治療のためには、ガン検診の継続は不可欠であり、23年度以降も実施する方向で検討すべき。 ・食生活の改善、生涯学習(健康と運動等)等、平常の生活の中にガンの予防対策に通じる対策を導入する工夫をしていくべきではないか。
2	丸山団地町営住宅建替事業	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト計算(設備、管理運営)、「費用対効果(採算性)」の内容を示し、検討経過(判断基準)を具体的に示すべきである。（「意図変更の可能性」、「手段変更の可能性」、「トータルコスト削減の余地」、「アウトソーシングの可能性」については、説明不足。） ・「毎年の単価アップに伴い、建設費も少しずつ増加」との説明は、入札執行率等から考えると理解しづらい。 ・「住宅政策」そのものを引き続き「公的対応(公営住宅等)」で計画していくのか、「民間対応(資本投資)」を主にして、公的支援を考えていくのか、検討すべき段階にある。
3	産業活性化サポート事業補助金	2	2	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「費用対効果の面」を判断材料として「効果的な方法で事業展開」しなければとの反省に立った新たな事業展開であるならば、「PDCA サイクルの徹底」を図るべきである。 ① 先ず問題(課題)意識の確認をしっかりとし、過程への位置づけをしっかりとすることが大切である。 ② 報告書はオープンにし、対象団体、町民を対象として報告会を開催し、その機会 に次年度

				<p>のプレゼンテーションをする場を設定する等、公開性・平等性を重視し、互いに切磋琢磨できる仕組みを検討してはどうか。</p> <p>・交渉、経理事務のための随行は必要なく、協働する意識を持って町・団体職員が参画するの なければ無駄である。</p> <p>・町が行うことの妥当性についての説明は、当たり前の話で、「町単独補助事業」として実施する ことの妥当性について評価を求めているものと判断しなければならないと思います。受益者 負担の考え方を導入すべきであり、人材育成の重要性を考慮し、各団体と行政が共に財源を負 担し、その内容を充実させる方向で検討すべきと考えます。</p>
4	評価表の様式について			<p>・行政の事務事業評価については、決算資料とともに公開していくものであり、多くの町民に 解りやすいものとなるよう工夫しなければならない。今回の様式は、流山市(千葉県)を参考に したと伺っているが、非常に解りづらいと思います。同時に提出された「教育委員会の評価」 の方が、簡明で解りやすい様式となっていると思います。新年度本格導入を目指して、より簡 明な評価表となるよう検討をお願いします。</p>

【参考】

○質的評価：1～5点

○量的評価：1～5点

「質的評価」の主な指標	「量的評価」の主な指標
① 効率性 ② 公平性 ③ 町民満足度 ④ 有効性 ⑤ 目標達成度 ⑥ 町民との協働度	① 事業の必要性 ② 事業費の妥当性 ③ 事業への町民ニーズ

○現状と今後の方向性の評価

- A：高い評価ができる。さらに発展的継続をすべきもの。
- B：ほぼ妥当な評価ができるが、修正を加え継続すべきもの。
- C：不十分な点が多くみられる。廃止も含め相当な検討が必要なもの。